



NEWS

No. 204
July 2025

(公社) 日本工学アカデミー広報委員会

Office : 〒 101-0064

東京都千代田区神田猿樂町二丁目7番3号

HKパークビルⅢ 2F

Tel : 03-6811-0586

Fax : 03-6811-0587

E-mail : academy@ej.or.jp

URL : <https://www.eaj.or.jp/>

NEWS

第13回(通算第29回) 定時社員総会開催報告

企画運営会議委員長代理 城石 芳博 / YOSHIHIRO SHIROISHI

6月5日(木)13:00~13:45 第13回(通算第29回) 定時社員総会が、東京ガーデンパレス3階 平安を拠点にウェビナー会議方式で開催されました。前回に続き、今回も事前の議決権行使の電磁化投票を基本として進めさせていただきました。なお、ご登録が無かった皆様については、従来通り書面による議決権行使をお願いしました。また、総会の様子は当日ウェビナーにて配信し、会員の皆様にご視聴いただきました。

定款第15条第1項の規定により、安西祐一郎会長が議長を務め、議案の審議に入りました。当日在籍正会員802名中、事前の議決権行使をされた正会員数が554名(電磁的行使449名、書面による行使105名)、事前の議決権を行使せず当日出席された正会員数が2名で、出席社員総数は556名であり、事務局より総会は成立している旨の報告がありました。また、議事録署名人として、議長に加え、議長提案の岸本喜久雄理事、城石芳博理事、川合眞紀理事が選出されました。

議事として、業務及び会計は適正に処理されている旨の独立監査人監査結果の報告のあと、辻 篤子監事より、業務及び会計は適正に処理されており、数多くの活動に精力的に取り組んでいること、この活動を持続的なものとすべく長期的な財政基盤の安定化の検討が必要な旨の監査報告がありました。続いて、城石芳博専務理事から第1号議案、第2号議案、第3号議案に基づき、議案毎に説明があり、それぞれの議案書の説明の後に議案書に対する議決権行使の集計結果の報告、議案書の採決の順で、議案書の審議が進められ、いずれも承認可決されました。最後に、城石芳博専務理事から、社員総会議案書に基づき、2025年度事業計画及び収支予算の報告があり、すべての議事を終了して、閉会となりました。



総会会場の様子

第13回定時社員総会に合わせ、対面での“理事が選ぶ事業貢献賞表彰”が、6月5日東京ガーデンパレスで開催されました。事業貢献賞表彰は、EAJの事業の発展にご尽力くださった委員会・支部・会員の皆様を、感謝を込めて表彰させていただくとともに、ご関係の皆様にEAJ事業への理解をより深めていただき、会員間の連携や支部・委員会の連携などの更なる強化、共創をめざしていただくべく、企画、実施されたものです。

これまで、会員が選ぶ事業貢献賞として表彰を実施して参りましたが、2027年のEAJ創立40周年に向け、EAJ事業の次の飛躍を図るべく、今年度から、理事の皆様に事業経営的な視点も含めて投票いただく“理事が選ぶ事業貢献賞表彰”とさせていただきます。通算4回目となる今回は、EAJフォーラム、活動概要、ホームページなど事業経営に関わる組織基盤事業活動、寄附金募集、2025年度予算策定活動などの財務基盤事業活動、新技術振興渡辺記念会調査研究、5G/6G時代のAI利活用戦略、「我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために」の公表、「情報学・工学分野における女性の参画を拡大する方策」の緊急提言などの報告書、委員会・実行委員会・支部の主催・共催・協賛・後援などによる、シンポジウム、講演会、政治家と科学者の対話の会、セミナー、フォーラム、国際会議、談話サロン・新入会員ガイダンス、賛助会員企業ラウンドテーブルなどの行事に関して、理事の皆様から多数のご投票をいただきました。

その結果、理事会における経営的視点での審議案件を含め、得票数の多かった下表の8件を表彰させていただく事になりました。EAJ理念の早期実現に向けた、受賞関係者の皆様の日頃のご尽力に心より厚く御礼申し上げます。なお選定は非常に僅差でした。惜しくも選考に漏れてしまったご関係の皆様には、心よりお詫び申し上げますとともに、引き続きEAJ活性化に向け、ご高配いただけますと幸いです。

表彰式では、原則として代表者にご登壇いただき、安西祐一郎会長から受賞者の皆様に、表彰状と記念品を授与いただきました。誠にありがとうございました。なお表彰式では、理事が選ぶ事業貢献賞“EAJ東北支部シンポジウム「産学共創によるイノベーション創出～大学・日本再生への道とは～」”受賞者の中部支部 林良嗣支部長が所用のため、中部支部 企画推進部会委員 伊藤みほ殿に代理でご登壇いただきました。

最後に、壇上で受賞者の皆様と安西会長とで記念撮影を行い、授賞式は盛会裏に閉会となりました。受賞された諸活動にご尽力いただきました、会員、委員会、支部のご関係の皆様方に重ねて感謝を申し上げますとともに、僅差で受賞に至らなかった多くの皆様がおられたことを再度付記させていただき、EAJ理念の「Engineer the Future」早期実現のため、引き続きEAJ活性化に向けご高配下さいますようお願い申し上げます。報告とさせていただきます。

表 受賞者および代表者、受賞案件、推薦理由

部門	受賞者および代表者	受賞件名	主な理事推薦理由
理事が選ぶ 組織基盤 活性化貢献賞	EAJフォーラム2024 原 昌宏 会員	EAJフォーラム2024 「QRコードの原点と成長 -地域初の世界標準事例に 学ぶ-」	明快で示唆に富んだ基調講演を行うとともに、会場やウェビナー参加者から多数の質問と意見交換を通じて、我が国の研究力、産業競争力の強化に向けて新たな一歩を踏み出す上での多様な視点を明らかにした。
理事が選ぶ 事業貢献賞	財務・事務機能強化 委員会 陸 哲也 2024年度委員長	2025年度収支予算見直し	持続可能な公益事業活動と正味財産維持の観点で、バランスよく2025予算案の策定を行うとともに、創立40周年となる2027年度以降の経営健全化をめざし、財務状況・事業構造の継続改善案の策定に貢献した。

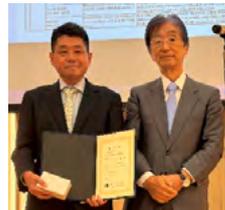
理事が選ぶ 報告書賞	政策提言プロジェクト 森 健策 プロジェクトリーダー	「5G/6G時代のAI活用戦略/生成AIをはじめとしたAIによる社会変容とリスクマネジメントに関する調査研究」成果報告書	政策提言プロジェクト、新技術振興渡辺記念会調査研究として、5G/6G時代の次世代AI/IoT技術の社会実装に向けた広範でタイムリーな調査研究を実施し、在るべき社会像と活用戦略を提言した意義は大きい。
理事が選ぶ 行事賞	政策共創推進委員会 永野 博 委員長	第9回・第10回政治家と 科学者の対話の会	政治家と科学者の対話の会で、双方向で意見を出し合いその議論の結果を取りまとめた「我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために（共有された考えのとりまとめ）」を公表し、記者会見も行ったインパクトは大きい。
	企画推進グループ 中山 智弘 リーダー	通算第198/199回談話サロ ン・第8/9回新入会員ガイ ダンス	新入会員の多彩なご経歴、抱負、EAJへの期待などを共有でき、また、アンケート結果によれば、EAJについてより深くご理解いただけ、活動参加へのお問い合わせもいただくなど、EAJの更なる発展につながると期待される。
	中部支部 林 良嗣 支部長	第20回EAJ中部レクチャー 「リベラルアーツと工学の 融合、未来社会への提言」	文化人類学者である上田紀行氏によるレクチャーで、良き工学に向かうには何が必要か、リベラルアーツが果たすべき役割は何か、企業は個性的な人材を本当に活かせるのかなど、についての問いかけの意義は大きい。
	ジェンダー委員会 行木 陽子 委員長	第8回EAJジェンダーシン ポジウム ～理工系女子学生 はなぜ大学院に進学しない のか?～	大学側が整備すべき取り組みについての大学側からの基調講演、女子学生諸氏による「理工学系女子学生はなぜ大学院に進学しないのか?」に関するパネル討論が行われ、生の声や、率直な示唆を多数いただいた。
	東北支部 神本 正行 2024年度支部長	EAJ東北支部シンポジウム 「産学共創によるイノベー ション創出～大学・日本再 生への道とは～」	産学共創によるイノベーション創出に向けた、基礎研究および基礎と実装化の間のギャップの理解、産学間で双方の考えを尊重し共通の認識を共有できる場と人の重要性の指摘、事例紹介はEngineer the Futureに有益である。



原 昌宏会員



財務・事務機能強化委員会
睦 哲也 2024年度委員長



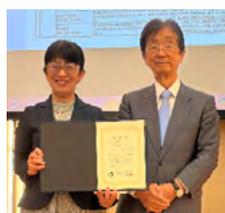
政策提言プロジェクト
森 健策 プロジェクトリーダー



政策共創推進委員会
永野 博 委員長



企画推進グループ
中山 智弘リーダー



中部支部 企画推進部会委員
伊藤 みほ 理事



ジェンダー委員会
行木 陽子 委員長



東北支部
神本 正行 2024年度支部長



安西祐一郎会長と受賞者の集合写真

安西祐一郎会長と受賞者各位、および安西祐一郎会長と受賞者との集合写真

EAJフォーラム実行委員会 委員会 岸本 喜久雄 / KIKUO KISHIMOTO
(文責) 城石 芳博 / YOSHIHIRO SHIROISHI

EAJフォーラム2025「米国の大学周りの研究開発力」が、6月5日(木)第13回(通算第298回)定時社員総会、“理事が選ぶ事業貢献表彰”式典に併せ、東京ガーデンパレス2階「高千穂」において、ハイブリッド方式で辻篤子会員の総合司会により14:50~16:00に開催され、現地で31名、ウェビナーで36名の皆様にご参加いただきました。

辻篤子会員の司会のなかにもありましたように、カーネギーメロン大学創始者記念全学教授 金出武雄氏は1995年に、車に設置した距離センサとカメラからの情報に基づいてNo Hands Across America(手をはなして東海岸から西海岸までアメリカ横断)という自動運転デモを実現され、また、スーパーボウルに「EyeVision」を投入したことなどで知られており、2016年にコンピュータビジョンとロボティクス分野での先駆的かつ実践的研究で京都賞先端技術部門を、2024年にロボットや機械に人間の視覚機能を備えた功績でJohn Scott賞を受賞されています。終身雇用型からジョブ型への流れが加速し、長期的視点でシステムの素養のある多様な人材の育成が益々大きな課題となっている我が国において、研究開発力、産業競争力、イノベーション創生力の強化に向けた新たな仕組みの構築と産学官一体となったパラダイムシフト、ギアチェンジへの速やかな挑戦が強く望まれており、新しい挑戦や変化の時代に向けて、「再生」「変化」「成長」をテーマにした本日のフォーラムが企画されました。

まず、安西祐一郎会長から、来賓、講演者、参加者への御礼と、CMUでロボティクス分野を立ち上げられた金出先生とは50年来の付き合いであること、アメリカの大学の動向など会員にとって貴重な講演になるとの開会挨拶がありました。続いて、金出武雄氏による基調講演「米国の大学周りの研究開発力」が行われました。研究の意義は、現実の問題解決、詳細な分析、世の中へのインパクトの3点、イノベーションは問題から出発し、社会的・経済的価値の創生に結びつくもので、基礎研究、理論研究も将来に与える影響、実用性を予測し、シナリオを描くことが重要、大学は人材と知識の循環エコシステムのポンプであること、米国大学でのテニユア制度、研究所の運営の仕組みとレピュテーションの重要性、AIの活用による科学研究の現状、大学が地域を変える力を持っていること、研究機関が問題を設定し、解決能力を育成し、人材を提供する役割を果たすべきこと、良い人材が集まると新しい産業が生まれること、研究者が自由に研究できる時間を提供することの重要性、などについて事例を多数挙げての紹介がありました。会場では、「日本の研究開発がアメリカのシステムを導入しても変わらない理由」について永野顧問から、「アメリカのビザカット政策が研究力に与える影響」などについて川合副会長から質問があり、それぞれに対して「アメリカのシステムが正しく理解されていないこと、ヨーロッパの成功事例を参考にすべきこと」、「優秀な人材の獲得が困難になる懸念があること」、などの回答が金出氏から述べられました。

続いて急遽国会日程のためご欠席となりましたが、国会議員とアカデミアの関係構築に向け、EAJの「政治家と科学者の対話の会」に参加いただいている、大串正樹 経済産業副大臣 兼 内閣府副大臣からのビデオ映像による来賓挨拶があり、「世界をリードする人材育成と活躍できる環境整備、多様なキャリアパス開拓の支援、大学発ベンチャーやスタートアップの活躍への投資などにおいて、双方向のコミュニケーションを通じて政治とアカデミアが課題解決に向けて協力することの意義、EAJへの、将来を見据えた意見交換と幅広い知恵を結集するシンクタンクとしての積極的な政策提言、EAJフォーラムがその新たな一歩となることへの期待」がのべられました。今後も連携を深めていきたいと考えます。

最後に岸本喜久雄会長代理から、大串正樹 経済産業副大臣 兼 内閣府副大臣、金出武雄 カーネギーメ

ロン大学創始者記念全学教授、活発な質疑応答をいただいた参加者への御礼と、自身が過去に金出先生から受けた指導への感謝と、研究は独り占めするものではなく、シナリオを書いて他の人に任せるべきだという金出先生の言葉を紹介いただくとともに、今後の活動への協力を呼びかける旨の閉会挨拶がありました。講演終了後も会場では、金出氏を囲んだ和やかで熱い議論が続くなど、フォーラム2025は名残惜しく閉会となりました。

フォーラム後に実施したアンケートでは、「昨今、学会などでも競争力強化などに関する表層的な議論が多いが、工学研究に対するきわめて本質的な議論で、非常に良かった」、「日本の大学の研究開発力のさらなる強化に向けた取り組みの必要性を感じた」、「良い研究とは何か、に関する説明には100%同意できた」、「大きな方向付けがされた」、などのお声を多数いただきました。ご指摘、ご意見につきましては、「人類の安寧とより良き生存のために、未来社会を工学する」を基本理念、パーパスとするEAJ事業活動の一層の活性化に向け、今後の企画・運営に反映させていただきたいと考えます。引き続きご支援・ご協力を宜しくお願い致します。なお今回のフォーラム運営にあたり、林秀樹常務理事、企画推進グループの中山智弘リーダーに多々ご支援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



辻篤子会員の総合司会



安西祐一郎会長閉会挨拶



金出武雄氏基調講演



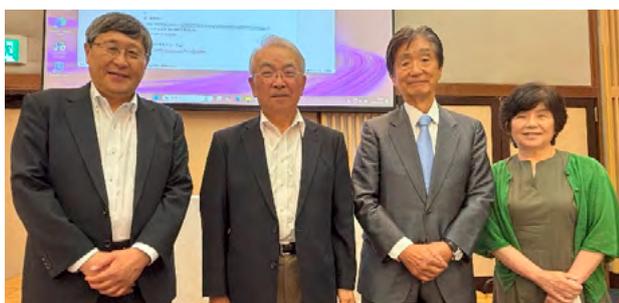
大串正樹経済産業副大臣
来賓挨拶



岸本喜久雄会長代理
閉会挨拶



会場での質疑の様子



岸本喜久雄会長代理、金出武雄氏、
安西祐一郎会長、川合眞紀副会長



辻篤子会員、行木陽子ジェンダー委員会委員長、
金出武雄氏、伊藤みほ理事、川合眞紀副会長

北海道支部では、今年度の取り組みとして、道内で活躍されている若手研究者の方々を招き、支部会員との交流を通じて新たな研究者間のネットワーク形成及び支部の活性化を図るとともに、会員増強にも繋げる意図で新たに研究発表会を企画した。本部よりご多忙の中、安西会長にもお越しいただき、2025年1月21日（火）16時から20時にホテルマイステイズ札幌アспен2階エルムの間で本会を開催した。参加者は15名であった。

北海道支部としては、発足後初めて会長をお迎えしての行事であったため、研究発表会に先立ち、理事懇談会を催して参加者が歓談した。安西会長がかつて3年間北海道大学に在職されていたことから、当時の様子を振り返ってお話し下さり、また黎明期のAI研究のお話など多岐にわたり、一同、興味深く拝聴した。本支部は今年設立5周年を迎え、より一層の発展を目指しているが、北海道に縁のある会長がおられることに一同心強く感じた。研究発表会での発表者は、副支部長、理事の先生方にそれぞれの所属大学から推薦いただき、発表題目等は以下の通りであった。

「第1回研究発表会」発表プログラム

1. 北海道大学 大友 陽子 先生（専門分野：地質学）
題目：環境調和型鉱山開発に向けた地質学と情報学の融合
2. 北見工業大学 澁谷 隆俊 先生（専門分野：天文学）
題目：最北の国立工学系大学で展く宇宙理学研究
3. 室蘭工業大学 橘 理恵 先生（専門分野：医用画像工学）
題目：人工知能と医用画像処理：大腸CT像の電子クレンジングへの挑戦
4. 千歳科学技術大学 春田 牧人 先生（専門分野：半導体デバイス）
題目：生体計測のための超小型計測デバイスの開発

このように海外でのフィールド調査や宇宙を対象とする研究や、医療分野、生体計測と多岐にわたる研究内容が紹介された。最近どの分野でも利用されてきているAIを活用し、分野融合的な研究に積極的に取り組まれている印象を受けた。また研究に対する熱意にも大いに刺激を受けた。最後に、黎明期からAI研究に取り組まれている安西会長から発表者それぞれに講評をいただいた。「歴史に名を残すような研究を！」との激励もあった。会長からの助言が今後の研究に活かされることを願っている。



研究発表会後の記念写真

引き続き行われた懇親会では、最初に瀬戸口支部長からの開宴挨拶があり、安西会長からの挨拶に続いて榮坂副支部長による乾杯の音頭で約90分に亘って発表者の研究や、北海道支部の今後の活動などの話題で懇談した。また研究発表会を来年度以降も企画した方が良いとの声が聞かれた。最後は幅崎副支部長の閉宴の辞により締めくくられた。



懇親会における安西会長によるご挨拶

NEWS

第10回 政治家と科学者の対話の会

政策共創推進委員会 委員長 永野 博 / HIROSHI NAGANO

日時：2025年3月3日(月)16時30分～18時05分

場所：衆議院第二議員会館 第一会議室

話題：国会議員からの問題提起とそれを踏まえた討論による政策共創

参加者：77名(議員9名、議員以外68名(賛助会員3社含む))

大野敬太郎議員(衆・自民)、新妻秀規議員(参・公明、オンライン参加)大串正樹議員(衆・自民)、小林鷹之議員(衆・自民)、小林史明議員(衆・自民)、平林晃議員(衆・公明)、赤松健議員(参・自民)、浅野哲議員(衆・国民)、河西宏一議員(衆・公明)、

政策共創推進委員会(永野委員長、長井副委員長、川合担当理事、谷担当理事 他)、

政策共創プラットフォーム(高木委員長、北原委員 他)、議員インタビューア(宮地氏 他)、

安西EAJ会長、岸本会長代理・副会長、五十嵐副会長、大島副会長、菱田顧問、原山顧問、他EAJ会員(賛助会員含む)、国会事務局・国立国会図書館、関係府省、メディア関係 等

概要：

はじめに大野議員から、本会を10回まで継続してきたEAJ関係者の努力に感謝、政治家とアカデミアの認識を合わせていくプラットフォームづくりであり双方向で意見を出してほしい、との挨拶があり、その後に議員からの問題提起とそれを踏まえた活発な討論が行われた。(なお、途中、大野議員から、浅野議員、河西議員が今回から初参加されることが紹介された。)

まず平林議員から、「日本の研究力の相対的地位の低下と大学の危機をどう乗り越えるのか」と題して、円安等で苦しむJSPS海外特別研究員の問題を国会で取り上げた経験から、これまでの支援はトップダウンが主流であったがこれからは研究者の意見を汲み上げるボトムアップとの融合が重要であること、その

ための対話の渦を引き起こしていきたい等の話題提供があった。これを契機として、ジャーナル掲載費の高騰問題への対応、我が国だけではなく世界を俯瞰した学生数減への対応、研究力向上のために取り組むべきことなど多様な議論に発展した。

次に赤松議員から、「生成AIとクリエイター」と題して、AI規制派の懸念点、それへどのように対応すべきか等について、漫画家としての視点も含めて話題提供が行われた。参加者からは、生成AIを利用しないことは国の存亡にかかわること、法規制の在り方等について活発な発言があった。

その後、永野委員長から、第9回委員会の議論を取りまとめた「我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために（共有された考えのとりまとめ（案）」が紹介された。小林史明議員から、アカデミアも参加してマテリアル分野にサーキュラーエコノミーの考え方を取り込もうとするもので、いろいろな政策分野において新しいコンセプトを生み出す良い事例であるとの発言が、大野議員から、政策の前提を汲み上げ共有することが重要であり、対話の会における第一号の事例として進めていきたい、との発言があった後、案のとおりとりまとめることとし、記者発表を行うこととなった。

なお、緊急提言「情報学・工学分野における女性の参画を拡大する方策」、EAJ報告書「5G/6G時代のAI活用戦略/生成AIをはじめとしたAIによる社会変容とリスクマネジメントに関する調査研究」についても紹介がなされた。

最後に、安西会長から、科学や大学の活性化が日本の将来に必須であるものの、それ以外のセクターとの連携も重要なので対話の会が発信していくことが大事であるとの挨拶が、新妻議員（オンライン参加）から、研究者に希望がない現状や社会に見解の相違がある中で、これら乗り越えていくためには、このような対話が重要であるとの挨拶があった。



左から、赤松議員、大野議員、平林議員



これまで10回で最多の出席者となった



第199回談話サロン・第9回新入会員ガイダンス報告

企画推進グループリーダー 中山 智弘 / TOMOHIRO NAKAYAMA

2025年3月6日（木）16:00-17:00オンライン開催の第9回新入会員ガイダンスは、新入会員にEAJ事業の全体像や、プロセスなどをより広くご理解いただき、新たな活動を立ち上げ、EAJに新風を吹き込んでいただくための一助とすべく開催された。また今回も、一般の会員の皆様にEAJの最新のEAJの状況をご理解いただき、新たな視点でEAJの活動に一層積極的にご参画いただくため、談話サロン（通算199回）も兼ねて開催された。

24名の参加者（うち新入会員13名）が参加した会は、中山智弘企画推進グループリーダーの司会で開始された。始めに、安西祐一郎会長から、新入会員の皆様へのお祝いと、今後ともぜひ一緒に“Engineer the Future” - 人類の安寧とより良き生存のために、在るべき将来ビジョンを念頭に、アカデミーとして

の存在意義を自覚しながら、未来社会を工学する – という高い理念の実現に向け活動していきたい、との祝辞が述べられた。続いて、EAJ NEWSに投稿いただいた各新入会員の自己紹介欄の投影に併せ、一人2分程度での自己紹介があり、多様性に富んだ新入会員の皆様の、多彩なご経歴、抱負、EAJへの期待などを共有できた。厚く御礼申し上げたい。これを機にネットワークが広がり、EAJ創立40周年に向け更なる発展につながることを期待される。

ガイダンスでは、城石芳博専務理事から、アカデミーの姿、EAJ理念、組織、事業の推移、主要事業の狙いと活動事例、および事業効果の実例の紹介、プロジェクトなどの企画・提案プロセス、諸手続きとお問い合わせ先などの説明があった。続いて、五十嵐仁一副会長から、経済産業省イノベーション・環境局イノベーション政策課 武田伸二郎課長による「我が国のイノベーション・エコシステムの現状と課題」の概要紹介を含め、株式会社デンソーウェーブ主席技師の原昌宏会員によって1994年に開発され、現在では世界中で使われ、情報インフラと言えるまでに普及しているQRコード™の実例などをパネル討論で取り上げた第8回賛助会員企業ラウンドテーブルの説明があった。続いて閉会挨拶として、岸本喜久雄会長代理から、入会のお祝い、EAJ理念の実現に向けた諸活動への積極的な参加への期待などが述べられ、最後に中山リーダーから、本日ご参加下さった方々への御礼と、アンケートへの協力をお願いが述べられ、本会は盛会裏に閉会した。

アンケートの結果によれば、EAJの活動についてより深くご理解いただけており、かつ、今後の参加を積極的に行いたいなどのコメント等もあり、充実したガイダンスとなった。今後、更なるEAJ活性化に繋げていきたい。



安西祐一郎会長と、オンライン第199回談話サロン・第9回新入会員ガイダンス参加者



第8回ジェンダーシンポジウム 「理工系女子学生はなぜ大学院に進学しないのか？」報告

ジェンダー委員会第8回ジェンダーシンポジウム委員 榎原 毅 / TAKESHI EBARA

ジェンダー委員会では、これまで7回のシンポジウム開催し、各人の多様な能力の発揮を妨げている主要因と考えられる“無意識のバイアス”について、データサイエンスに基づき理論的に考察するなど、産

業構造が変容するなかでダイバーシティの観点で、人類の安寧とより良き生存社会課題解決に向け未来社会を工学するための施策の在り方について議論してきた。今回の3月7日(金)16:00-18:30に開催された第8回シンポジウムでは、理工学系女子学生の大学院進学問題をとりあげ、女子学生の数と企業の必要枠のギャップが分野、地域ごとに異なることなどに着目し、第1部で、受け入れ側の大学側が整備すべき取り組みについて、第2部で、研究者の登竜門となる大学院進学の際において、研究職を志す女性の底上げについて議論した。

田中真美会員の司会で第8回シンポジウムが開催された。安西祐一郎会長から開会挨拶として、本テーマと関係する“情報学・工学分野への女性の参画”の重要性に鑑み、緊急提言を最近出したことの紹介と、本シンポジウムで、講演、パネル討論はじめ本会に参加下さった方々への御礼が述べられた。続いて産業医科大学 教授の榎原 毅会員から趣旨説明があり、続いて、第一部「大学側が整備すべき取り組みとホンネ」に関して、お茶の水女子大学 教授 伊藤貴之氏、東北大学 教授 北川尚美氏、日本大学 常務理事 渡辺美代子会員から、エビデンスベースでの基調講演があり、会場からの3件の質問に対し先生方からの熱い思いが語られた。女性の学部入学者を増やすこと、大学院進学に関するイメージの払拭、地域間格差への対応など、共通する課題が明らかとなった。

続いて筑波大学 教授 鹿野豊会員をファシリテーターとし、お茶の水女子大学大学院 村上綾菜氏、東北大学大学院薬学研究科 横山裕香氏、日本大学大学院生産工学研究科 鞍田恭子氏をパネリストとして、女子学生諸氏による「理工学系女子学生はなぜ大学院に進学しないのか？」に関するパネル討論が行われた。議論しにくいテーマにもかかわらず、表面的な議論だけではなく、これまでの経験に基づき、安心感を持てる環境の得失など、普通では余り触れることのできない機微な点についての生の声や、産学、環境、地域差、情報差などの状況改善に向けた率直な示唆を多数いただけた。例えば、身近なロールモデルの重要性、身近な先輩からの体験談、女性学生の進学に関する情報の共有など、アーリーエクスポージャーの重要性(保護者や教員によるアンコンシャスバイアス)など、進学を決めるきっかけとなる多様なポイントも紹介され、非常に示唆に富む、ジェンダーシンポジウムならではのパネル討論であった。

最後に行木陽子ジェンダー委員会委員長から、準備、講演、議論、参加いただいた皆様への御礼、緊急提言の紹介、本会が女子学生の大学院進学の一助になればなどの閉会挨拶があり、130名もの参加申し込みがあった第8回シンポジウムは名残惜しく終了した。アンケートでも好評な感想を数多くいただいた。



第8回シンポジウムでの開会挨拶、趣旨説明、司会、基調講演、パネリスト、閉会挨拶などの参加者

EAJ 理事・東北支部副支部長 (現東北支部長) 長坂 徹也 / *TETSUYA NAGASAKA*
東北支部専務理事 足立 幸志 / *KOSHI ADACHI*

EAJ東北支部シンポジウム「産学共創によるイノベーション創出～大学・日本再生への道とは～」が、令和7年3月21日(金)13時よりハイブリッド(*会場参加・オンライン参加)で開催された。田中真美教授(東北大学医工学研究科)の司会で、湯上浩雄EAJ東北支部理事(東北大副学長・NICHEセンター長)より開会の挨拶と本シンポジウムの趣旨説明、並びに「何故いま産学共創によるイノベーション創出なのか」の紹介がなされ、引き続き、次の5件の講演があった。

まず、佐藤準東北大学特任教授(東北大学産学連携機構 企画戦略部長)による「東北大学の産学共創の取組の現状と期待」と題した講演がなされた。東北大学の産学連携を推進する様々な取り組みが紹介され、特に3年前に導入された大学内に企業の連携拠点を設置する共創研究所では、研究活動推進のみならず研究テーマの探索や人材育成も行われており、産学のより密接な連携を推進していることが紹介された。

次に、小池亮東北大学特任准教授(トヨタ自動車東日本・東北大学 環境融和ものづくり共創研究所 運営総括責任者)による「企業から見た産学共創によるイノベーション創出の必要性と課題」と題した講演がなされた。企業人でありながら12年間大学に常駐している立場から、現象の本質を深く理解するための基礎研究および基礎と実装化の間に存在するギャップの理解、そして産学間で双方の考えを尊重し共通の認識を共有できる場と人が産学共創成功の鍵を握ることが紹介された。

山田 健一特任教授(東北大学共創戦略センター)による「「産学共創の場」の構築を目指す東北大学サイエンスパーク」と題して、社会価値創造やイノベーション創出を実現したいと考える人々が集まるコミュニティであり、学術領域やセクターを超えた連携のきっかけとして大学をプラットフォームとして活用するMICHINOOKコミュニティについて紹介された。

約10分間の休憩後、足立幸志教授(東北大学大学院工学研究科副研究科長)の司会で、高田昌樹理事長((一社)光科学イノベーションセンター)による「企業製品開発の加速に向けたナノテラス利用とは」と題した講演がなされた。「何を見たいか」ではなく「何をやりたいか」がナノテラス利用の動機として重要であり、企業におけるビジョンを実現するために利用するという従来の放射光施設とは大きく異なるナノテラス利用の戦略が紹介された。

岡部朋永教授(東北大学工学研究科、東北大学グリーン未来創造機構・グリーンクロステック研究センター長)による「複合材料のマルチスケール解析からナノテラスを用いた産学連携研究へ」と題して、産学共創のために最も重要なことは、企業にとって信頼される基礎学理の確立であり、現在、産業界において広く利用されている複合材料のマルチスケール解析が、現状に至るまでの具体的な研究開発の事例が紹介された。

長坂徹也教授(東北大学未来科学技術共同研究センター、東北大学副学長)により、「まとめと閉会の辞」が述べられた。

本講演会は、「東北大学グリーン未来創造機構」と「東北大学未来科学技術共同研究センター(NICHe)」の主催、「EAJ北海道支部」と「東北大学工学研究科」との共催により、東北支部シンポジウムとしてハイブリッドで開催され、50名の参加があった。

EAJ 理事・東北支部副支部長 (現東北支部長) 長坂 徹也 / *TETSUYA NAGASAKA*
東北支部専務理事 足立 幸志 / *KOSHI ADACHI*

EAJ東北支部シンポジウム「アントレプレナーシップ教育の新たな展開」が、令和7年4月24日(木)13時よりオンラインで開催された。猪股宏教授(東北大学未来科学技術共同研究センター・副センター長)の司会で、長坂徹也EAJ東北支部副支部長(東北大NICHEセンター教授)より開会の挨拶と本シンポジウムの趣旨説明、並びに「アントレプレナーシップの新たな教育とは」の紹介がなされ、引き続き、次の4件の講演があった。

まず、湯上浩雄東北大学理事(東北大学未来科学技術共同研究センター長)による「みちのくアカデミアスタートアッププラットホーム(MASP)の取り組み」と題した講演がなされた。今年度から参加機関が24校となるMASPの4本柱である「みちのくGAPファンドによる起業活動支援」、「アントレプレナーシップ人材育成」、「起業環境整備」、「スタートアップ・エコシステムの形成」の活動概要を中心に、みちのくGAPファンド採択者向けの伴走支援やチームアップの重要性や起業のみが最終目標ではない人材育成としてのアントレプレナー教育の重要性とそれらを達成するための活動の詳細について紹介された。

次に、モンテカセム学長(国際教養大学)による「国際教養大学のアントレプレナーシップ教育」と題した講演がなされた。国際教養大学で取り組んでいる「社会変革を導く秋田県の重要課題を対象にした5つの推進力のあるプロジェクト(気候変動に強い農業、グリーンでスマートなモビリティ、健康的な高齢化、ウェルビーイングとしての森林、DXデータサイエンスとAI)」の詳細とアントレプレナーシップ教育の「場」としての課題解決のためのプロジェクトに対する取り組みの意義について紹介された。

約10分間の休憩後、植松康特任教授(東北大学未来科学技術共同研究センター)の司会で、藤田直子教授(秋田県立大学生物資源科学部)による「秋田県立大学の大学発ベンチャー企業の設立とアントレプレナーシップ教育」と題した講演がなされた。藤田先生が開発し商品化に成功している「まんぷくすらし」の科学に裏付けられた開発背景と起業のための工夫、大学内連携による工業分野への展開戦略ならびに秋田県立大学のアントレプレナーシップ教育として行われている起業力醸成プログラム、ビジネスプランコンテスト、ギャップストーンについて紹介された。

続いて高橋晶子教授(仙台高等専門学校総合工学科)により「仙台高等専門学校のアントレプレナーシップ教育～全学生のマインド醸成を目指して～」と題し、2023年に開始された高専スタートアップ環境整備事業により整備された仙台高専版アントレプレナーシップ教育カリキュラムと起業家工房「アントレの巣」に関し講演がなされた。本科学生に対しては、夢を考えるきっかけを与え、受動から能動に行動変容を促し、豊かな生活を送るための現実的なお金の話を理解させ、専攻科生には、地域の課題を発掘して技術で解決する実践スキルを学ばせる一貫した教育によって、全ての学生にとって自分事として捉える仙台高専のアントレ教育について紹介された。

最後に、森田純恵教授(秋田県立大学システム科学技術学部情報工学科、EAJ東北支部理事)により、「まとめと閉会の辞」が述べられた。

本講演会は、「EAJ東北支部」、「東北大学未来科学技術共同研究センター(NICHe)」の主催、「EAJ北海道支部」との共催、「一般社団法人東北経済連合会」の協賛、「みちのくアカデミア発スタートアッププラットホーム(MASP)」の後援により、東北支部シンポジウムとしてオンラインで開催され、36名の参加があった。

第2回 若手リーダー塾 開催報告

第2回若手リーダー塾実行委員会

代表報告者：EAJ 若手委員会 委員長 関谷 毅 / TSUYOSHI SEKITANI
EAJ 若手委員会 副委員長 永野 智己 / TOSHIKI NAGANO

開催日：2025年4月23日（水）・24日（木）

会場：大阪大学中之島センター(+オンライン配信によるハイブリッド形式)

主催：公益社団法人 日本工学アカデミー(EAJ)、大阪大学

共催：EAJ 人材育成委員会、EAJ 若手委員会、EAJ 関西支部

協賛・後援：公益社団法人日本工学会、一般財団法人大阪大学産業科学研究協会、PE研究会

1. 開催概要

日本工学アカデミー(EAJ)は、次世代の産学官を担う若手人材の育成を目的として、「第2回若手リーダー塾」を2025年4月23日（水）・24日（木）の2日間にわたり、大阪大学中之島センターおよびオンラインによるハイブリッド形式で開催した。

今回のリーダー塾では、「未来を拓く国際人材へ成長する新たな視座」を全体テーマに掲げ、「EAJフューチャー・リーダーズ・フォーラム」として構成された。初日と2日目冒頭は、広く一般に公開されたシンポジウムとして、5件の講演およびパネルディスカッションを実施した。2日目の講演会後は対面参加者限定とし、少人数のグループディスカッションと総合討論を行った。

このように、公開型と参加型を組み合わせた二部構成とすることで、より多様で実践的な意見交換の場を設け、国際社会で活躍するために求められる視座、行動力、課題解決力の育成を目指した。

2. プログラムと参加状況

【1日目 | 講演・パネル討論】

初日はEAJ会長安西祐一郎先生、大阪大学統括理事・副学長田中敏宏先生（EAJ関西支部長）のご挨拶に続き、EAJ副会長で本フォーラム（若手リーダー塾）実行委員長・EAJ副会長の川合眞紀先生（自然科学研究機構 機構長）のご挨拶の後、実行副委員長の関谷毅EAJ理事・若手委員会委員長から、本フォーラムの狙いや構想について趣旨説明がなされた。その後、4件の講演が行われた。

- 松下康之 氏 (Microsoft Research Asia)
「情報科学研究における国際的なリーダーシップ」
- 長我部信行 氏 (日立ハイテク)
「イノベーションの担い手は？— 私の企業経験と歴史観から—」
- 林恭子 氏 (グロービス経営大学院)
「『人を動かせる』リーダーになる」
- 武田秀太郎 氏 (慶應義塾大学/京都フュージョニアリング)
「未来を拓く新時代のリーダーのみなさんへ」

講演後のパネルディスカッションでは、登壇者と参加者による活発な意見交換が行われ、産業界・学术界の異なる視点が交錯する刺激的な時間となった。パネルディスカッション後には、永野智己実行委員(EAJ若手委員会副委員長)より初日の閉会挨拶と翌日の案内がなされた。初日の閉会後は対面会場での

記念撮影と、9階のサロンにて懇親会が行われ、対面でのネットワーキングも活性化された。

【参加者数】139名（現地72名／オンライン67名）

【2日目 | 講演・グループ討論・総合討論】

・白坂成功 氏（慶應義塾大学）

「新技術を活かした社会・産業構造変化をリードする」

2日目の講演会后、関谷実行副委員長より、オンラインでの参加者への閉会の挨拶と、アンケートの回答の依頼が行われた。

その後、対面会場にいる参加者は少人数のグループディスカッションを行い、「国際社会における人材成長と産学官民の連携」をテーマに意見を深めた。総合討論では、実践的・創発的なアイデアや課題解決の方向性が示され、今後の連携の糸口となる具体的提言も交わされた。

総合討論の後、川合眞紀実行委員長より全体総括と閉会の挨拶がなされ、盛大に締めくくられた。

【参加者数】129名（現地34名／オンライン95名）

3. 成果と今後の展望、今後のアクションプラン

2日間で延べ268名が参加し、リーダーとしての視座、他者との協働、そして国際的視野の重要性を再確認する場となった。参加者からは「視野が広がった」「多様なバックグラウンドとの対話が刺激的だった」といった前向きな声が多く寄せられた。

現在、参加者を対象としたアンケートを実施中であり、得られた知見や反響を踏まえ、講演内容の要旨、ディスカッションの論点、アンケート結果を整理のうえ、今後、社会や政策への提言書としてまとめ、広く発信する予定である。EAJでは、こうした活動を通じて、国際的に活躍できる次世代リーダーの育成を今後も継続的に支援していく予定である。

このような素晴らしい開催をご支援くださりましたEAJ関係者の皆様に深く感謝申し上げます（第2回若手リーダー塾実行委員会一同）。



4月23日初日、対面会場にて撮影した集合写真

新入正会員のご紹介

(2025年5月入会者)

[第1分野]

うめはら のりつぐ
梅原 徳次



名古屋大学大学院工学研究科 教授

1988年東北大学大学院工学研究科（機械工学専攻）修了後、同助手、准教授、2002年名古屋工業大学教授を経て、2004年より現職。専門は、精密加工とトライボロジー。精密加工では、磁場を用いたセラミック球の磁性流体研磨を発明し、高効率・高精度研磨であることを解明し、新たな研磨法として学术界・産業界に提案しました。トライボロジーでは、窒化炭素硬質膜の乾燥窒素中での超低摩擦現象を発見し、低摩擦発現機構を明らかにしました。どうぞよろしくお願ひします。

たけいし けんいちろう
武石 賢一郎



大阪大学大学院基礎工学研究科 招聘研究員

1974年に大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程を修了後、三菱重工業高砂研究所に入社。以降30年間、天然ガス焼きガスタービン・コンバインドサイクル発電（GTCC）の主機である超高温ガスタービン（GT）の心臓部、タービン冷却翼の研究開発に従事しました。冷却翼の設計に必要な伝熱研究を、超高温・超高速・回転場という極限環境を対象に独自の手法で進め、1500℃級G型GTまでのすべてのタービン冷却翼を設計しました。

2004年より大阪大学大学院工学研究科教授として、産学連携のもとタービン冷却翼の伝熱研究の高度化を推進し、1650℃級J型GTの開発に大きく貢献しました。2014年からは徳島文理大学理工学部教授、後に学部長を務め、研究と教育の両面で活動しました。2020年以降は大阪大学に席を置き、46年間にわたる研究成果を論文や著作にまとめるとともに、2000℃級GTを見据えた熱工学の深化に取り組んでいます。

今後は、これまで培ってきた経験と知見を活かし、EAJの場を通じて、エネルギー技術と地球環境の両立という社会課題の解決に引き続き貢献してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

[第2分野]

ちん きょう
陳 強



東北大学大学院工学研究科 教授

東北大学大学院工学研究科電気及び通信工学専攻の博士前期と後期課程を修了、博士（工学）。その後、東北大学助手、助教授、准教授を経て、2013年に教授（波動工学講座電磁波工学分野）。無線通信や無線電力伝送、ワイヤレスセンサネットワークにおけるアンテナと電波伝搬に関する教育研究に従事。最近、液晶を用いたリフレクトアレーアンテナやミリ波用ビームフォーミングアンテナなどの研究開発プロジェクトに参画。今後、日本工学アカデミーの活動を通して、一層社会貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

[第3分野]

さとう としふみ
佐藤 敏文



北海道大学大学院工学研究院 教授

1996年北海道大学大学院工学研究科分子化学専攻博士後期課程修了（博士（工学））、同年北海道大学大学院工学研究科助手、2007年北海道大学大学院工学研究科准教授を経て、2013年から現職。現在、北海道大学化学反応創成研究拠点（ICReDD）ListサステナブルDX触媒連携研究プラットフォーム（List-PF）主任研究者、国立中央大学（台湾）主任教授、科学技術振興機構（JST）創発「グンパネル」領域アドバイザー、研究開発戦略センター（CRDS）特任フェロー、CREST「ゆらぎ材料」領域アドバイザーを兼任。

専門は高分子合成化学。複雑な化学構造をもつ高分子材料を簡便に合成出来る新しい方法論を創成し、高分子構造と物性の相関を明らかにする基礎研究と共に、これらの高分子材料を用いた応用展開を企業と共に取り組んでいます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ふじい みのる
藤井 稔



神戸大学大学院工学研究科 工学研究科長・教授

1992年神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了、同年松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）半導体研究センター、1995年神戸大学大学院自然科学研究科助手、2003年同工学部助教授、2009年同大学院工学研究科教授、2025年より同工学研究科長。2001年より1年間 Alexander von Humboldt 財団の支援によりミュンヘン工科大学で研究。専門は、ナノ材料、ナノ構造の作製、物性評価、応用探索で、特に半導体ナノ粒子への不純物ドーピングによる物性制御や新機能実現に関する研究を行ってきた。最近は、高屈折率誘電体の Mie 共鳴による物質と光の相互作用の制御や増強に関する研究を主に行っている。

[第5分野]

はしつめ ひでとし
橋爪 秀利



仙台高等専門学校 校長

東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻博士課程中退後、東京大学助手、講師、東北大学助教授、教授を経て、2025年4月から現職。専門は核融合炉工学。核融合炉の実現を目指し、分割型高温超伝導マグネットの開発に取り組んできました。また、最近では、核融合炉を利用した高レベル放射性廃棄物の有効活用と資源化の研究も進めており、深地層処分を必要としない、核燃料サイクルの高度化の研究を進めてきました。今後は、日本工学アカデミーの活動を通して、社会に貢献して行きたいと考えておりますので、どうぞ、よろしくお願ひいたします。

[第6分野]

せきやま あきら
関山 明



大阪大学大学院基礎工学研究科 教授

1997年3月同大学大学院理学系研究科博士課程修了、博士（理学）、大阪大学大学院基礎工学研究科 助手・助教を経て2009年4月より大阪大学大学院基礎工学研究科 教授、現在に至る。

専門は物性物理学（実験）、特に高輝度放射光を用いた高エネルギー電子分光。主に光電子分光による強相関電子系物質の電子構造研究を進めてきました。もともと理学畑で社会実装と無縁な研究をしておりますが、「表面ではなくバルク（固体内部）の電子状態を見たい」という動機で使う光の波長はどんどん短くなり、硬X線光電子分光分野の開拓をしてくと産業利用の方々との接点も見えてくるようになりました。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

新入客員会員のご紹介

(2025年4月入会者)

[第1分野]

シュウ エンカ
鄒 艶華



宇都宮大学工学部 教授

私は鄒艶華と申します。2004年宇都宮大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。「磁気力を利用した加工技術」に関する基礎研究と応用研究に力を注いでいます。磁気力を利用した加工技術は、磁力線の透過現象を利用して、手が届かない、通常の加工工具が入らない箇所の精密仕上げに適用できます。その中に、半導体関連産業などに用いられるクリーンパイプの内面研磨や、微細複雑形状部品の表面仕上げ技術の研究開発に力を入れて研究を行っています。また、2024年4月より精密工学会理事、精密工学会国際交流委員長を務め、学協会活動・社会貢献活動に従事しています。今後は、日本工学アカデミーの活動を通じて、異なる分野間の国際的な学術交流を進め、女性研究者の国際的な活躍の促進に貢献したいと考えています。

[第2分野]

チリ ムゲ
策力 木格



電気通信大学メタネットワーク研究センター センター長・教授

2010年、電気通信大学博士後期課程修了後、同大学で助教、准教授を経て、2022年に教授、2023年よりメタネットワーク研究センター長を務めています。専門は情報ネットワーク、ビッグデータ、AI、高度道路交通システム(ITS)です。近年は遠隔運転やロボットの遠隔制御に関する企業との共同研究を推進し、成果の商用化・社会還元に取り組んでいます。専門性を活かし、技術革新や政策提言を通じて社会に貢献したいと考えています。

テイ ギンキョウ
鄭 銀強



東京大学大学院情報理工学系研究科 教授

1983年生まれ。2009年に文部科学省国費奨学金を得て来日、2013年に東京工業大学(現東京科学大学)大学院理工学研究科機械制御システム専攻にて博士号(工学)を取得。国立情報学研究所に約7年間従事した後、東京大学へ転籍。2024年より同大学院情報理工学系研究科にて現職を務める。専門分野であるコンピュータビジョンにおいて、数理モデリングと機械学習の融合的アプローチを基軸に、センシング技術の革新と画像生成・認識・理解の高度化に取り組んでいる。

[第3分野]

キム イクス
金 翼水



信州大学 卓越教授・副学長・繊維科学研究所所長

1967年韓国生まれ。1995年名古屋大学に留学、修士と博士。2003年から信州大学講師、准教授を経て2018年より現職。2015年信州大学1号ライジングスター教員、繊維科学研究所所長、2020年卓越教授、学長特別補佐、副学長。専門はナノファイバーの設計や様々な応用、2010年世界初ナノファイバー大量システムの開発に成功。今まで様々な開発品を発表した。近年はナノファイバーのエネルギー分野と医療分野、センサー関連の研究に打ち込む。2021年には文部科学大臣表彰の科学技術賞を受賞。400本以上の研究論文(H-Index68)と100件以上の特許を発表。日本、韓国、中国のトライアングルから、シルクロードに沿ったEUとアメリカまで繋ぐ教育と研究の太いネットワークの形成に興味がある。

チョウ コウ
張 宏



国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所 客員研究員、
中国浙江大学 教授

東京工業大学大学院で学び、群馬大学で医学博士号を取得、国立放射線医学総合研究所などの研究機関において、医学と医工学の学際的な研究に取り組み、分子イメージング分野における研究を行ってきました。これまで陽電子放射断層撮影（PET）の研究開発に従事し、がんや神経疾患などに対する高精度な画像診断技術の向上に貢献しました。今後は日本工学アカデミーでの活動を通じて、学際的国際交流の促進に貢献したいと考えています。

ロ ウン
魯 云



千葉大学工学研究院 名誉教授・グランドフェロー

1988年10月に留学生として来日、1993年3月広島大学工学研究科博士後期課程を修了し、工学博士学位を取得しました。同年4月千葉大学工学部に助教として着任、同講師、准教授、教授を歴任。長年、大学において研究、教育および国際交流に力を注ぎ、材料科学分野において新材料の研究開発に携わりました。研究開発では、鉄鋼材料について相変態メカニズムや材料の強じん化、複合材料についてはFRMの創製と有限要素モンテカルロシミュレーションによる強度信頼性の向上、および複合材料の機能特性の開拓、また粉末冶金において燃焼反応による金属間化合物の創製など幅広く展開してきました。近年、環境改善と新エネルギー利用の観点から環境浄化光触媒や酸化物熱電材料の創製および高性能化を探索し、またそれらの実用化を進めています。日本工学アカデミーでの活動を通して他分野融合と国際交流活動に貢献したいと思います。

[第4分野]

チョウ ジョウキ
趙 城埼



早稲田大学総合研究機構 招聘研究員

1975年10月中国浙江省生まれ。2006年早稲田大学大学院博士後期課程修了、2010年同大学博士（工学）、早稲田都市フォーラムフェロー。東アジアにおける持続可能な建築・都市開発に関して研究と実践を行ってきました。日本に研究拠点を置きながら、大学や研究機関と提携し、海外にも同分野における研究実践プロジェクトを展開しています。今後もEAJを通して、日中間の都市・建築における産学共創の促進に力を尽くす所存です。

チョウ ショウセン
趙 勝川



城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科・メディア学部 教授

1963年生まれ。1983年北京交通大学を卒業、1996年東京大学大学院都市工学専攻博士課程を修了、博士（工学）。北京交通大学助教、講師、日本学術振興会特別研究員（DC2）、テキサス大学客員研究員、（一財）計量計画研究所研究員、大連理工大学教授、ハーバード大学ケネディスクール・アジアプログラムフェロー（フルブライト訪問学者）などを経て2024年4月より現職。東京大学工学部フェロー。専門分野は都市交通計画、都市計画、交通経済学。今後は、日本工学アカデミーの活動を通して、国際交流に貢献したいと考えています。

ハン エツ
范 悦



**株式会社九州住環境計画研究所 特任研究員、
深圳大学建築与都市計画学院 院長・特任教授**

中国東南大学を卒業し、千葉大学で修士、東京大学にて博士を取得した。「住宅工業化」や「建築再生」の研究を一貫して従事し、都市化とサステナビリティについて研究しています。東京大学を修了してから、日本建築学会のアジア建築エネルギーと環境の委員会の委員として、中国住宅のエネルギー消費や品質改善に貢献してきた。“建築再生と住宅工業化国際学術シンポ”や、“中日韓工学研究連盟国際シンポジウム (International Symposium on Fusion Tech.)”を開催し、主席を務める。都市サステナビリティにおいてUNESCO Chair Partnerや“アジア都市環境協会”中国区の副会長を担任。国際著名雑誌《新建築》中国語版や、《World Architectural Review》の編集長を担任し、アジア建築師協会社会責任委員会委員 (ARCASIA) を務める。RIBA China Architect 100に選ばれ、中国建築設計賞教育賞などを取得した。これから、EAJを主要なベースとして、日本を初め先進国の知名大学や研究機関と研究ネットワークを進んで築いていきたいと思いません。

[第5分野]

カン コクセイ
官 国清



弘前大学理工学部理工学研究科地域戦略研究所 教授

1968年生まれ。1995年中国四川大学工学研究科博士後期課程(化学工学専攻)修了。工学博士。1999年九州大学応用化学部門の博士研究員として来日。その後、産業技術総合研究所、ドイツ・IMM研究所、福岡女子大学、東京大学を経て、2010年に弘前大学准教授、2016年に同教授に就任。専門は化学工学・材料化学・エネルギーなど。現在は、環境・新エネルギー分野において、バイオマスの高効率熱化学変換技術、水分解用電極触媒等エネルギー材料、CO₂の資源化技術などの開発に関連した研究を展開している。EAJの活動を通じて、地域振興や、エネルギー分野の国際学術交流、若手研究者及び学生の国際的な活躍の推進に貢献したい。

リン ヒンロク
林 彬勅



**国立研究開発法人産業技術総合研究所 上級主任研究員、
筑波大学生命環境系 連携教授**

1990年に中国福建師範大学で理学修士号を取得後、廈門市環境保護局に勤務したのち、環境分野の学問を深めるため1992年に来日しました。1998年に東京農工大学で物質生物工学博士号を取得してから東京大学生産技術研究所のリサーチアソシエイトとして勤務しました。2001年に産総研の招聘型主任研究員として採用されて以来、化学物質および新エネルギー関連の環境技術や政策の持続可能性評価の研究を担当しています。研究のキーワードは、化学物質・環境リスク・窒素循環・リスクトレードオフを中心としたものです。今後はEAJの活動方針に従い、物質循環やリスクトレードオフの視点からの政策提言や人材育成、国際交流などの活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

賛助会員

(2025年5月入会)

花王株式会社
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

INFORMATION



鈴木 宏二郎 会員
2024年12月逝去 62歳

東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

2023年2月 EAJ入会

2022年 日本航空宇宙学会会長

2016年 第26回日本航空宇宙学会賞(論文賞)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

6月というのに日本は既に猛暑が襲っているようですね。ウィーンも最高気温が30℃に達する日が出てきました。

これを書いているのは6月24日(火)ですが、イスラエルとイランの間の戦争、米国のイラン核施設3都市への攻撃、イランのカタール米軍基地への反撃、イスラエル=イラン停戦合意(あくまでもトランプSNS報道による)と、目まぐるしく国際情勢が動いています。人類は、残念ながら今世紀も殺戮の応酬という愚行から逃れられないようです。

我が日本工学アカデミーも、工学、科学技術という側面から人類の平和共存と安寧を祈って活動している訳ですが、なかなか難しいものです。「国連が機能しない」とよく言われますが、そりゃアンタ、国連の主要メンバーで方向性を決める権限を持った大国が自分でルール違反してるんだから、そうなるでしょ、とも言いたくなります。

あくまで世界の平和を祈りつつ、今後の皆さんの更なるご活躍を期待します。

(広報委員会委員長 安永裕幸)